

発行責任者  
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会  
湘南支部長 中尾 剛久  
茅ヶ崎市赤羽根 2661 - 26  
Tel : 090-4897-4074

# 隊 友

## 湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

### 「積雪に寄せて」

湘南支部長 中尾 剛久

新年のご挨拶を述べさせていたただいてからほぼ一月が経ちましたが、この短い間に実に様々な出来事がありました。二月七日からは、イタリアでミラノ・コルティナ冬季オリンピックが始まり、日本選手の活躍に国中が歓喜しました。一月二十三日には衆議院の解散が宣言され、二十七日公示、二月八日投票という、真冬の超短期間の衆議院選に突入しました。結果は皆様ご承知のとおり、自民党が歴史的な大勝を収め、湘南支部特別会員の星野剛士氏及び河野太郎氏も当選されました。誠におめでとございます。これにより、高市総理はほぼ全能となる政治的条件を獲得したも同然ですから、懸案となっている政策をこれまでどおり進めていただくことを期待しています。戦略三文書の検討前倒しや装備移転三原則における五類型の廃止などを進め、経済状況も好調に推移すれば、その先に憲法改正という大事業が見えてくるのではないかと思います。

さて、政治関連の話はこれくらいにとどめて、季節の話題に移りたいと思います。この冬は日本海側を中心に大変降雪量が多くなっています。原稿作成中の段階で、全国の積雪関連の事故による死者数は三十名に達しており、近年稀にみる多さになっています。湘南地域を含む関東の太平洋側でも二月第一週の週末に降雪があり、数年ぶりに積雪を見ましたが、雪国の大変さは察して余りあるものがあります。

会員の方々の中には現役時代に雪国での勤務経験をお持ちの方も多いためと思いますが、私も二回ほど雪国で勤務したことがあります。平成三年に青森県の八戸市（八戸航空基地隊）で一冬を、平成二十年から二十二年にかけて、むつ市（大湊地方総監部）で二冬を過ごしました。南部地方の八戸市と下北地方のむつ市では同じ冬でもかなり印象が異なります。八戸の降雪量はそれほど多くありませんが気温は低めです。冬のスポーツはスキーよりもスケートがポピュラーでした。一方むつ市は、雪が大量に降る「ザ・雪国」ともいうべき気候でした。それでも一年目の冬はそれほど積雪はありませんでした。二年目は南国生まれの私にとって初めて経験する雪まみれの冬になりました。住んでいた官舎は四階建てで、階段ごとに八戸の部屋があります。雪かきは階段ごとに住人が協力して行いますが、海上自衛隊であるので、艦艇乗組みの単身赴任者が住んでいる階段はハズレと認識される傾向がありました。長期出張などの行動があれば雪かき要員として全く期待できないからです。残った家族持ちが、時には夫婦総出での雪かきを余儀なくされます。それに比べると、私のような陸上勤務の単身赴任者は家族に対する気兼ねもなく、フルパワーで雪かきに勤しむことのできる立場なので、随分と重宝され、感謝されました。人間は褒められ、頼られると図に乗るものです。誰にお願いされなくても、出勤前と退庁後の階段入口廻りの雪かきは私の役割となっていました。

それでも除雪した雪の高さが自分の背丈を超えるようになると、雪ハネに非常に苦労しました。折角撥ね上げた雪がすべて落ちてくるとこの河原状態の悲哀を何度も感じたものです。

また、降雪が多い朝には官舎地区にも部隊の除雪隊が大型のホイールローダーで除雪に来てくれます。これは実に有難いのですが、クセモノでもあります。除雪車両は主要道路のみ除雪するので、駐車場と道路の間にはバケットから外れた雪が堤防のように積み上がります。そのため、事前に車の雪を落とし、駐車場の雪かきをして、その雪を除雪車が除雪できるように道路まで押し出しておく必要があります。除雪車がやってくる朝の五時半頃までにはこの作業を完了しておかないと、その朝の車の出勤は諦める必要があります。このように、大湊の冬の朝は寒くて早い上に、大変肉体的に辛い日が続きました。

もう一つ驚いたのは、雪庇の威力です。入居したのは夏、部屋は最上階の四階でした。ベランダに出てみると、どうもアルミ製の手すりが内側に曲がっています。その理由がわかったのは冬になってからでした。官舎の屋根には勾配がついており、屋根に積もった雪は次第に勾配に沿って落下する仕組みですが、屋根の末端から即座に落下するわけではありません。何日もかけてズレ動き、屋根の外側までせり出していきます。しかも先端は大きく内側に回り込み、まるで四階の部屋を狙うかのような状態でした。

手すりが曲がっていた理由は、この雪庇が手すりに当たり、押し曲げたことが原因でした。さすがに危険を感じたため、ハンマーで雪庇を砕いて地面に落とし、事なきを得ました。今回は久しぶりの積雪を見て、私の短い雪国経験をさらさら書きましたが、同じような又はもっと大変な経験をされた方も多いと思います。当時を思い出す縁となれば幸いです。

### 勅語講義と教育勅語 — 栗田一族が歩んだ苦悩の軌跡 — (後編)

特別会員 栗田 恵子

#### レイテ沖海戦における決断

健男の葛藤が頂点に達したのは、昭和十九年、レイテ沖海戦の頃ではなかったかと考えています。帝国海軍にとって事実上最後の大規模な海戦となったこの作戦では、特攻を含む過酷な命令が次々と下され、多くの若い命が戦場へ送り出されていきました。

特攻作戦とは、生きて戻ることをほとんど期待されない作戦です。そのような命令を出さなければならぬ指揮官としての責任と、一人の人間として若者たちの人生を思う気持ち。そのあいだで、健男の心は引き裂かれるようであったのではないのでしょうか。

レイテ沖海戦で彼が一時的に艦隊を反転させたという事実については、いまもさまざまな評価や議論があります。けれども、その決断の背景には、祖父・寛の残した「生きることを尊ぶ教え」が、かすかであるにもかかわらず息づいていたように思えてなり

ません。戦術や命令だけでは割り切ることのできない、人としての迷いや祈りのようなものが、そこには確かにあったのではないかと、同じ家族の歴史を知る者として、どうしてもそう感じてしまいます。

言葉の変質がもたらす影

教育勅語の文言そのものは変わらないまま、解釈や受けとめ方だけが、社会の空気や政治的な状況によって大きく揺れ動きました。寛の時代には「人を育てるための道徳」であったものが、健男の時代には「命を差し出すことを求める教え」とされてしまった。この変化を、一つの家族の歴史の中に見てしまうことは、とてもつらいことです。

同時に、言葉がどれほど大きな力を持ち、使い方によって人を支えることも、縛ることもあるのだと気づかせる経験でもありません。そこから目をそらさずに向き合うことが、今を生きる者の責任でもあると感じます。

結びに代えて

栗田一族が歩んできたこの歴史を振り返るとき、言葉の持つ「やさしさ」と「こわさ」の両方を、改めて意識せざるを得ません。

教育勅語の中に語られている、親を思うことや家族を大切にすること、自分を慎み、周囲と和を保つ姿勢は、今の時代にも通じる大切な価値だと感じています。一方で、その言葉が戦時の空気の中で変質し、多くの人の運命を変えてしまったことも、決して忘れてはならない事実です。

湘南支部の皆様にも、先祖が直面したこの重い歴史を、一つの家族の物語として、そして日本が歩んできた道の一場面として、心のどこかに留めていただけましたら幸いです。そして、私たちが言葉をどのよ

うに受けとめ、どう使っていくのか、そのことを静かに考えるきっかけになれば、これにまさる喜びはございません。

令和7年度 隊友会湘南支部 安全保障トークサロンを終了して

支部理事役 荻原 洋聡

令和7年12月21日(日)に、令和7年度安全保障トークサロンを藤沢ミナパーク(藤沢商工会議所)で開催しました。

吉川榮治氏(第28代海上幕僚長)を講師に迎え、「工作船事案とその後の対策について」の講話をいただきました。吉川氏は、海上自衛隊創設以来、初めての海上警備行動となった、1999(平成11)年の「能登半島沖不審船事件」に際し、第3護衛隊群司令として現場の指揮を執られました。特に、その現場に在った者しか知り得ない臨場感溢れる経過状況の説明には、参加者が圧倒されていました。その当日、筆者(荻原)は第4航空群(厚木)の当直士官として勤務中でしたから、作戦室における経過状況に接した場面をありありと想い出しながら拝聴しておりました。



講師：吉川榮治氏

また、2001年には、九州南西海域において同様の工作船事件が発生しました。それらの教訓から、海上自衛隊・海上保安庁において、相互間の連携強化、海上自衛隊の組織・装備等に採用された具体的対策等について述べられました。昨年は昭和100年でした。戦争の時代(20年)とその後の平和の時代(80年)を振り返り、次の100年の日本の行く末

を考える一機会になったと思います。「戦端を開いた」結果がもたらす取り返しのつかない惨禍を意識しつつ、「戦端を開かない」ための手段・方策等を考える場として有意義な機会になったものと考えます。講演会に引き続き懇親会には27名の参加者との熱い対話が続ぎ、盛会のうちに終了することができました。

防災・減災サステナブル大賞

2026受賞について 支部理事役 荻原 洋聡

一般社団法人 減災サステナブル技術協会(後援：一般社団法人 レジリエンス協会・日刊工業新聞社)による「防災・減災サステナブル大賞2026」において、特別賞・審査員(ライフレジリエンス)賞を受賞することができました。 「防災(おうさい)・災害対応能力」向上の提言・啓蒙活動を評価として、現在勤務中の株式会社エヌ・ワイ・ケイ(日本容器工業)とエヌ・ワイ・ケイが設立したNPO法人貯水タンク防災ネットワーク(Chonet.org)の受賞です。



表彰状



表彰盾

特に、Chonet(貯水タンク防災ネットワーク)の出前講座・ユスフ大佐の防災・防災・減災セミナーや、隊友会湘南支部での諸活動等を評価していた

だいたものと思います。本受賞を一里塚として、引き続き、これまでの体験等を次世代を担う人々に語り伝えていきたいと思っています。

令和7年度年会費納入者(敬称略)

湘南支部長(二月九日現在)

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。 正会員 野田義信、

「当選おめでとう」ございます

今後の国政における更なるご活躍を願っております。 衆議院議員(順不同・敬称略) 【神奈川県12区】星野剛士 【神奈川県15区】河野太郎 (支部長 中尾剛久)

「パプアニューギニアのこどもたち展」レポートは、紙面の都合上、次月号の掲載となります。(編集長)

- 「支部の予定」
・03/07(土) 第12回支部理事役会
・03/08(日) 藤沢地区入隊・入校激励会
・03/15(日) 神奈川自衛隊音楽まつり
・03/23(月) 3月号隊友紙発送

編集後記

第51回衆院選は8日投票開票され自民党単独で3分の2を超える議席を確保した。高市早苗総裁が第105代首相に選出され、第2次高市内閣が発足した。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しく願います。